

量的緩和 2014.9/5 金融資産を大量に買い入れ

主要中央銀行の量的金融緩和策

日銀

量的・質的金融緩和
(2013年4月～)

- 資金供給量を年間60兆～70兆円増やす
- 長期国債を中心、ETFなどリスク資産も購入

米連邦準備理事会(FRB)

量的金融緩和第3弾
(2012年9月～)

- 導入当初は国債を月450億ドル、住宅ローン担保証券を月400億ドル購入
- 現在は規模を縮小しながら、今年10月にも終了予定

イングランド銀行

量的金融緩和(2009年3月～)

- 3750億ポンド(約65兆円)の資金供給枠を設定
- 国債などを購入

▽中央銀行が物価や金融市场の安定、景気の刺激を目指して、国債などの金融資産を市場から大量に買い入れて資金供給する政策を指す。狭い意味では、金融政策の誘導目標を金利ではなく「お金の量」に切り替える政策を指す。政策金利を上げ下げする従来の金融政策と異なるため「非伝統的金融政策」とも呼ばれる。

▽日銀は2001年3月から06年3月まで、日銀に金融機関が預ける当座預金の残高を積み上げることを金融政策の目標とし、これ

▽中央銀行が物価や金融市场の安定、景気の刺激を目指して、国債などの金融資産を市場から大量に買い入れて資金供給する政策を指す。狭い意味では、金融政策の誘導目標を金利ではなく「お金の量」に切り替える政策を指す。政策金利を上げ下げする従来の金融政策と異なるため「非伝統的金融政策」とも呼ばれる。

▽日銀も13年4月に、黒田東彦総裁が年50兆円のペースで長期国債を買い入れる「量的・質的金融緩和」を導入し、マイナス圏で推移していた物価上昇率がプラスに転換する一因となつた。欧州でもデフレ回避へ本格的な量的緩和の導入を求める声が強まっている。

さようの日銀